

緒言

本書の目的と意図を読者がより明確に理解できるようにするために、用語の説明と定義が必要である。「夢の中でその者に語る」という題名が暗示するとおり、本書は神がある男に夢を通して伝えられたことが土台となっている。私は、20年以上にわたって、睡眠中に多くの夢を主から授かってきた。真の信者はみな霊的な歩みに召されているのだが、私は、読者諸氏がその歩みのための励ましと啓示を本書の中に見出されることを希望する。

私はまず最初に、旧約と新約に見出される神のことばを私が信じているということを述べておきたい。それは、あらゆる霊的なことがらを判断するための基盤である。第二テモテ3章16節は次のように述べている。

「聖書はすべて神の靈感によって与えられたもので、
教え、譴責、矯正、義における訓育のために有益で
す、、、」（欽定訳）

本書の記述は、総じて次のような順序によっている。ある夢を紹介し、その解釈を私の理解するところによって述べる。それから私は、これらの啓示に説明を加え、いくつかの考えや教えを述べる。勇気づけ、教え、叱責、警告、慰め、戒めその他の、我々の霊的な歩みをより注意深く省察させるのに必要なあらゆる方法により、我々は何らかの実践的な理解に到達する。

いまここで、「夢」と「幻」という用語によって私の意味するところを説明しておきたい。「夢」という言葉が使われるときは、それは文字通りの意味であり、それ以上でもそれ以下でもない。これらの夢や啓示は、私が眠っていた間に受けたものがほとんどである。「幻」という用語が使われるときは、覚醒している間に霊の領域を見ること、として理解されるべきである。夢と幻は、印象や、白昼夢または心理的な内省と同視するべきではないことを、ご理解いただきたい。

今日、霊の世界からの多くの声が存在するこの世界において、われわれはクリスチャンとして、それらを生み出している源を見抜き識別できなければならない。霊的な啓示、夢、幻、声、しるしの多くは、神からのものではない。なぜなら、真の啓示のそれぞれに対して多くのまがい物や誤った啓示があるからである。本物の超自然的、霊的な啓示はすべて、聖書において啓示され書き記された真理による検証に耐えるものである。

終末のときである現在においては、魔術的で悪魔的な力の猛襲があるし、これからもそうである。クリスチャンは、これらの事実に対処するにあたって二つの危険に直面する。その一つは、霊的な啓示を恐れ、そのためそれらのすべてを拒絶することである。もう一つは、見聞きするものを何でも信じて、誤りに陥ることである。一つ目の状態は、多くの人々が口にする、「私は教会には行かない。あそこは偽善者が多過ぎるから！」という表現を思い出させる。皆さん、我々は多くの偽善者の周りで働き、生活しているではないか。ならばどうして我々は、教会にいるいくらかの偽善者を気にするのか。我々の信頼や友情を何人かが裏切ったからといって、二度と友達を作ることを

しないという理由になるだろうか？ 骨があるからといって、よいステーキを投げ捨てることはしないでおこう。そうではなく、神からのものを見抜き、そうでないものを拒否することを学ぼう。

従って、夢や幻や特別な啓示については、抵抗して怖気づかないようにしよう。というのは、友たちよ、神は今日でも、我々に霊的な洞察を与えるために、多くの方法を用いることがおできになるし、また実際に用いておられるからだ。聖書の旧約と新約において、神は、夢、幻、声、そして神の使いを、神の道を啓示するためにしばしば用いられた。聖書のかなりの部分は、これらの方法によって書かれ、啓示されたのだ。新約（特に黙示録）を注意深く読むならば、我々はそれらの方法が神によって、また神の敵によっても、益々用いられていることを見出すのである。我々がこれらの方法を否定するのであれば、我々の霊的な歩みの中で神が用いられるその他すべての方法も否定しなければならなくなる。神は、新約の書簡に名前が出てくる伝道者、教える者、その他の聖職者たちに対してそうであったように、我々に対しても語りかけるための方法と手段をお選びになるのだ。

我々は、聖霊を我々の限られた思考で閉じ込めないほうがよい。神を神として扱い、我々の霊的な巡礼において我々を助けるために神がお選びになるいかなる手段でもやり方でも用いていただかなければならない。方法はさまざまだがそれらの出所は神でなければならない。いつまでも乳を飲んでいるのではなく、成長するために肉を食べてみよう。しかし、何でも信じる

ということのないように注意し、使徒ヨハネが第一ヨハネ4章1節で我々に命じた次のことを実践しよう。

「愛する者たちよ、霊だからといって何でも信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを検証しなさい。なぜなら、多くの偽預言者が世に出て行ったからです。」

夢を授かる者として、私は夢、幻または啓示なら何でも信じるということはしない。我々の夢のほとんどは、睡眠の大部分を自然と夢を見ることに費やしているためにやってくる。夢の多くは、就寝前に我々の心が掻き乱されたり、馴れない辛い食物を取りそろえたものを食べたりしたことによっても生じる。我々の心を経由してやってくるものは全て、三つの源のいずれかから来たものであることを覚えておこう。それらは神的、悪魔的、または人間的な源である。我々はクリスチャンとして、方法の背後にある源を見ることを学ばなければならない。例えば、テレビやラジオの伝道者のうち幾人かは神からのもので、神のことばを真に宣言している人々であろう。その他の者たちは神のことばを名声と利得のために利用している羊の衣を着た狼どもであろう。またあるものたちはこれらの二つを混ぜることすらして、自分自身に大いなる滅びと恥辱を招いている輩だろう。もし我々が聖書をもっと注意深く学ぶならば、これらの弁舌家や詐欺師たちにそう易々とは騙されないだろう。すべてのことにおいて、虚偽から真理を、鉱石から金塊を、岩石から宝石を選び分けよう。

最後に、本書は祈禱のための日々の読み物としても使うことができよう。もっとも、我々を沈静させるよりも刺激することのほうが多い読み物だが！ ここで紹介されている夢のほとんどは特に順序立てられてはいないし、読者は、異なるレベルの理解と考えを見出すであろう。これらの夢は、神の私に対する啓示として紹介される。主は、この方法によって、私に教えられ、私の霊的な洞察に加えられたのである。神は現在でも、しばしば一部分しか見えない不完全な人間の器を用いられる。そのことを、読者が考慮されることを願うものである。時には、とてもよく似た夢が複数ある場合には一緒に配置することもある。その場合、霊的な聖句について我々が行うのと同様、それらの夢の適用を最大限活かすために異なる角度からアプローチするよう試みる。読者が、夢から夢へととばして読むことを望む場合は、ほとんどの場合、たやすくできることに気づかれるであろう。これらの夢は、私の人生の長い年月をカバーしている。そのうちのいくつかは乳として、またいくつかは肉としてのものであることに気づかれるであろう。

願わくば聖霊が、この本や聖書に見出されるものであれ、神が用いることを望まれるいかなる手段において見出されるものであれ、すべての霊的な真実に対する洞察と理解を与えてくださるように。あなたが、筆者もそうであったように、救いのため、そして今の時代にあってあなたの人生の主人なるお方に奉仕する力を得るため、あなたの信頼と信仰を主キリスト・イエスに捧げられることを望む。我々のあらゆる弱さ、欠点、不完全さのなかにあって、ローマ人への手紙5章8節に見出されるこの真実を握っていよう。

「しかし、私たちがまだ罪人であったときにキリストが私たちのために死んでくださったことにより、神はご自身の私たちに対する慈しみを明らかにしてくださったのです。」